

大賞 高校生部門

鹿児島県南九州市  
鹿児島県立川辺高等学校1年  
萩原 千聖

## 「言葉」の力

第5回 言の葉大賞

入試の日。前半戦を終え、昼食休憩に入ったときのことである。そこまで食欲なかったが、食べる真似だけでもと思い弁当包みを開いたとき、ホッチキスで綴じられた紙が数枚入っていた。「必見!! 試験攻略テキスト」とある。気になってめくってみると「大丈夫その食いつぶりなら試験を制すby父」だの「あきらめない!!この一念で最後まで。試験前には必ずお便所へ参りませう母」「ちさと食べすぎてねるな妹たち」などとイラストもまじえて書かれた家族からのメッセージであった。干渉してくるなよ。迷惑。やけに食うことについてばっかだななどと心の中で毒づきながらも頬がゆるんでしまう。私が寝ている間に全員で書いてくれたらしい。何度も何度も読み直し、午後に備えた。

言葉とは、文字や音声だけでなくコンピュータ言語や手話も含まれるらしい。古来から人をつなぐ伝達手段として共に成長してきた。言葉には見えない分、大きく不思議な力を秘めているのだろう。

言葉を使って私たちは自分を表現し、相手を受け入れることができる。互いを思い、消化することができる。例えば、感謝や相手を慕う心を表現しようとしていくつもの花束を積んでも、言葉にしなければ上手に伝えることは難しい。生活になくってはならない存在なのだ。その反面、自分を卑下し、相手を拒絶することもできる。互いを差別し、傷付けることができってしまう。身近にあるから、その痛みに気付きにくい。

言葉を人がつくり、言葉が人をつくってきた。しかし「言葉にならない」という言葉がある程、言葉にはまだまだ量り知れない何かを持っている。だから、これからも「言葉」との接点を多く持ち、その秘められた力を解き明かしていきたい。言葉は、人を幸せにする方法の一つだと私は考えている。それが人をつなげてゆくだろう。「言葉」は、新たな冒険の鍵なのかもしれない。